

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第49週 (12/1-12/7) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		49週	48週	47週	46週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	12/1-12/7	11/24-11/30	11/17-11/23	11/10-11/16	11/24-11/30
			49週	48週	47週	46週	48週
小児科	RSウイルス感染症		8	10	8	11	104
			0.44	0.56	0.47	0.61	0.78
	咽頭結膜熱		2	1	1	0	31
			0.11	0.06	0.06	0.00	0.23
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	62	35	54	47	297
			3.44	1.94	3.18	2.61	2.23
	感染性胃腸炎	○	251	170	150	112	1,120
			13.94	9.44	8.82	6.22	8.42
	水痘		14	12	13	15	155
			0.78	0.67	0.76	0.83	1.17
	手足口病		18	15	21	21	87
			1.00	0.83	1.24	1.17	0.65
インフル	伝染性紅斑		1	2	3	1	49
			0.06	0.11	0.18	0.06	0.37
	突発性発しん		11	11	11	14	57
			0.61	0.61	0.65	0.78	0.43
	百日咳		0	0	1	0	0
			0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
	ヘルパンギーナ		4	3	0	0	5
			0.22	0.17	0.00	0.00	0.04
	流行性耳下腺炎		3	4	1	1	62
			0.17	0.22	0.06	0.06	0.47
	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	223	150	84	31	614
			7.96	5.36	3.11	1.11	2.90
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	流行性角結膜炎		6	2	2	3	17
			1.20	0.40	0.50	0.60	0.50
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
	マイコプラズマ肺炎		0	1	2	0	3
基幹定点			0.00	1.00	2.00	0.00	0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	1	0	1
			0.00	1.00	1.00	0.00	0.11
基幹定点	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	画像診断等
結核	男性	50歳代	病原体等の検出等	結核	女性	70歳代	画像診断等
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	急性脳炎	男性	70歳代	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	90歳代	IGRA検査等	-	-	-	-

・結核9件(241)、急性脳炎2件(20)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第49週のコメント

<A群連鎖球菌咽頭炎> 前週より増加し3.44となった。過去10年の同時期と比べると多い。

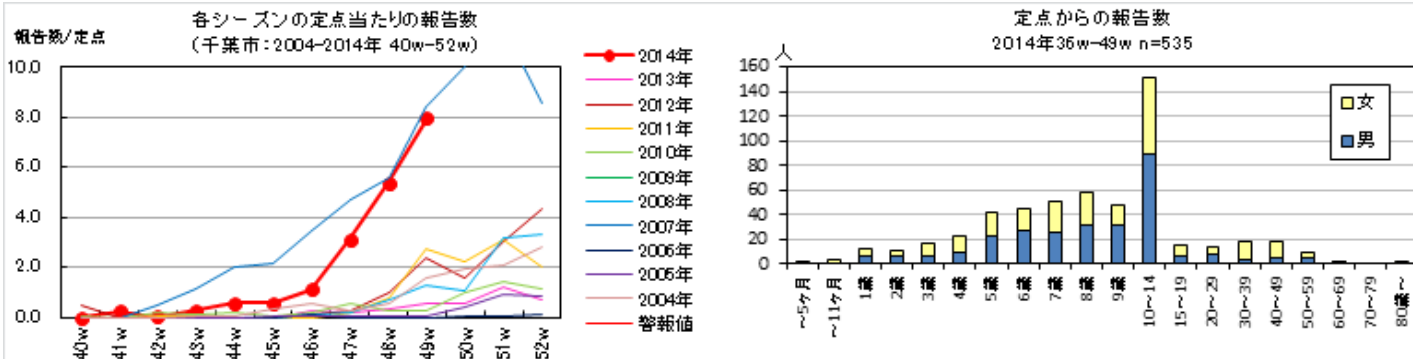
<感染性胃腸炎> 前週より増加し13.94となった。過去10年の同時期と比べると例年並み。

<インフルエンザ> 前週より更に増加し7.96となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

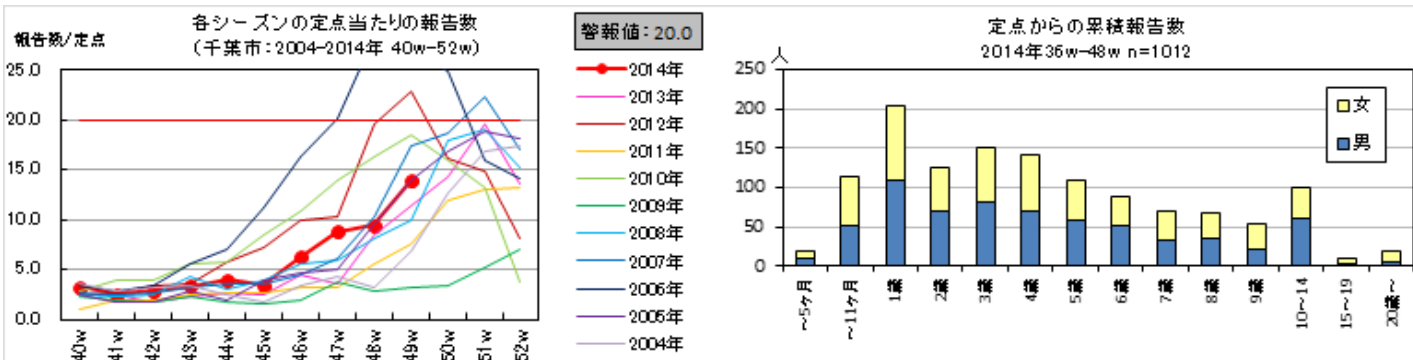
<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第48週現在は過去7年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、東北地方の一部や関東地方で上昇しており、岩手県、福島県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第49週現在は前週より更に増加し7.96となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区(15.6/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、1年代あたりでは5歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から第49週現在の累積報告数(n=535)によると、性別では男性が53.1%(284名)、女性が46.9%(251名)で、年齢階級別の1年代あたりでは8歳(10.8%:58名)、7歳(9.3%:50名)、9歳(8.8%:47名)の順に多くっており、全体に占める20歳未満の割合は88.6%(474名)、10歳未満の割合は57.6%(308名)となっています。



<感染性胃腸炎>

2014年の全国レベルの第48週現在は過去7年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、大分県、福岡県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第49週現在は前週より増加し13.94となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。区別の発生状況では、若葉区(23.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳～3歳で最も多く報告されました。若葉区では、今年年頭から連続して例年の平均+2SDを上回る高い水準で推移しています。今シーズンである2014年第36週から2014年第49週現在の累積報告数(n=1272)によると、性別では男性が52.1%(663名)、女性が47.9%(609名)で、年齢階級別では1歳(16.51:225名)、3歳(11.8%:150名)、4歳(11.2%:142名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

2014年の全国レベルの第48週現在は前週より減少しましたが過去7年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、島根県、北海道、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の第49週現在は前週より増加し3.44となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、若葉区(5.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から2014年第49週現在の累積報告数(n=404)によると、性別では男性が52.7%(213名)、女性が47.3%(191名)で、年齢階級別では6歳(16.3%:66名)、5歳(14.1%:57名)、4歳(13.4%:54名)の順に多くなっています。

